

ポピュラー音楽史 ポップミュージックの歴史

過去の音楽を知ることが新しい音楽に出会う手がかりになります。ここでは音楽史をおさらいしていきましょう。まずはポップミュージックから。

ポップミュージック=大衆音楽

ヨーロッパの長い歴史によって育まれたいわゆる「クラシカルミュージック」はごく限られた人々によってのみ楽しまれた音楽であって、多くの人々が日常的に耳にしたのは宗教的な場所が1つ、もう1つは生活のなかでのレクリエー

ションとして歌い踊るときでありました。

アメリカが新大陸としてもはやされ、多くのヨーロッパ人が移り住んだとき、彼らが新大陸に持ち込んだ音楽はクラシカルな格調高いものではなく「大衆音楽」がほとんどでした。

ブルースからR&Bとジャズへ

大きな転換のきっかけとなったのは、労働力としてアフリカから多くの黒人が強制的に新大陸に連れて来られたこと。ヨーロッパの音楽とはハーモニー、リズム、メロディーにおいてアフリカの音楽はまったく異なっていて、白人の感覚と趣味には合わなかったし、黒人たちと自分たちを区別するためにも認めないという姿勢がほとんどでした。

ブルースはそんな黒人たちの哀しみや怒りを自由に歌う中で誕生した音楽です。またアフリカ由来の音楽を楽器で演奏する黒人たちが現れ出し、アフリカンミュージックの魅力は白人の間にも広がり始めました。もう一方で白人の洗練された音楽に魅力を感じる黒人も現れ、次第に両者は融合することになります。しかし忘れてはならないのはアメリカ合衆国の人口的、経済的な支配者は白人であるということです。ポピュラリティを獲得することの意味は白人に認められるということを前提としているので、

白人のテイストによるコントロールが行われたのは当然のことといえば当然のことでした。

ブルースはR&Bとジャズの2つに枝分かれます。あくまでも「歌」がメインのR&Bと、インストを主流とするジャズです。R&Bつまりリズムとブルース=歌=言葉をメインとする枝葉は、その後さらに枝分かかれと接ぎ木を繰り返して現代のポップミュージックの本流となっていきました。一方言葉に頼らず楽器による表現に主眼をおいたジャズという枝は、その後ハーモニー面で高度に進化していきます。そのため次第に「一般的=ポピュラー」ではなく「芸術=アート」の側面が強くなっていくようになったのです。その結果、R&Bの流れをくむ音楽は共に歌ったり踊ったりして楽しむ音楽となり、ジャズ系列の音楽は聴いて理解する音楽としての傾向を強めていきました。どちらが音楽として優れているかを比較することはまったく意味がないことで、音楽のタイプが違うのです。

新しいリズムの誕生

ジャズ系列の音楽が現代のポップミュージックへまったく影響をおよぼしていないかというと、そういうわけではありません。R&B系列のポップミュージックが歌を中心に発展・進化しましたが、その歌詞は当然のことながら「英語」でした。英語こそがポップソングの言葉だったのです。しかしアメリカは世界のいろいろな地域から人々が移り住んできた移民国家であり、20世紀になってその傾向はさらに著しくなります。すると英語以外の言葉を話す音楽家がたくさんやって来ることになり、彼らの音楽が英語ではないという理由でR&B系列に入り込めないという状況が生まれてしまいました。そのときにジャズ系列に住処を見つけ出すことで、アメリカ合衆国の音楽文化に迎え入れられたのです。

R&B系列の音楽の進化あるいは発展のキー

ポイントはまさに「リズム」の変遷でした。つまり、ブラックミュージックスタイルの基本であるスウィング感がどのように変化したかの歴史です。曖昧だったスウィングをスローテンポでは8分音符の3連符でロックすることで白人にもわかるように工夫したり、8ビートムーブメントの影響を受けたときには8分音符を分割した16分音符にスウィングさせること、そしてポリリズムを応用した大掴みなビート感を同時進行させるという発明をしました。さらには16ビートがクローズアップされると、1小節内に16個ある音符を巧みに組み合わせることで、ある種のスウィング感を維持しつつ新しいリズムを作り出しました。やはりリズム&ブルース、つまりリズムに合わせて歌うというスタイルを継続してきたのです。

自由なハーモニー

もう一方の太い枝であるジャズの進化・発達には、白人がスウィングジャズまでに進化させてきたハーモニー体系に、黒人音楽のブルーノートを含むハーモニー感覚をいかにマッチさせるかのチャレンジに起因します（ブルーノートについての詳細はP148を参照してください）。その後はより大胆にアフリカ由来のハーモニーセンスを振り所にしたり、さらには「自由」をキーワードにしたハーモニーや調性からの離脱などが行われてきました。1970年代のロックムーブメントはジャズにもロックビートを認めさせたりもしましたが、ジャズの歴史はジャズのハーモニーの変遷そのものといつてよいでしょう。

20世紀半ば以降はミュージックビジネスがマスコミュニケーションと力を合わせて大型化し

たため、すべての音楽はミュージックビジネスに取り込まれていきました。

そこには世界中のより多くの聴衆の元に届くことを旗印に、音楽が本来の個性とパワーとを次第に失っていかざるをえない状況に置かれ、その傾向は現在も続いていると言わざるを得ないかもしれませんが、ヨーロッパのノンクラシック音楽が「アメリカ」という新大陸でアフリカ音楽に出会ったことで、ポップミュージックの歴史が大きく動き出した事実には変わりありません。誰しもが耳にしたことのあるザ・ビートルズやマイケル・ジャクソンに代表される世界的な大ヒット曲は、奇しくも異文化の融合から生み出されたものなのです。